

# 日本学術振興会バンコク研究連絡センター

活動報告(2009年7月~9月)



## 2nd JSPS-NRCT Summer School: Biomass Energy in Asia開催

9月7日~9日 JSPS Bangkok Office、National Research Council of Thailand(NRCT)、Biomass Utilization in Agricultural Sciences Forum Group、AGRI-COCOON、Graduate School of Agricultural and Life Sciences、and Asian Natural Environmental Science Center、The University of Tokyo の共催により、バンコクにおいて 2nd JSPS-NRCT Summer School: Biomass Energy in Asia が開催された。

バイオマス・エネルギー利用は、エネルギーの安全保障、地球温暖化対策においてその重要性が増している。2月にバンコクで開催した第1回に続き、日本とタイの若手研究者(博士課程、ポスドク等)が研究発表と共通課題の議論を通じて、バイオマス・エネルギー利用について多面的な理解を深めるとともに、人的なネットワークの構築を促すことを目的として第2回サマースクールを開催した。タイと日本よりあわせて講師10人と若手研究者22人が参加した。

本サマースクールでは、バイオマス変換技術(Biomass Conversion Technology)に特に焦点を当て、政策と持続性の議論と総合討論を加えた5つのクラスルームセッション: Session I: Policy and Sustainability、Session II: Chemical and Thermal Conversion、Session III: Enzymatic Conversion of Cellulose、Session IV: Methane



Fermentation and Bioconversion、 Session V: Plenary Discussion で構成され、バイオマスをエネルギーや燃料に変換する様々な技術について研究発表が行われ、それぞれのアプローチの長所や課題などについて活発に議論が行われた。

2日目にはサラブリー県において、スターチ工場に併設された、廃液からバイオガスを熱源として利用するプラントと、砂糖工場に併設され、サトウキビの搾りかすからエタノールを製造するプラントを見学した。後者は、日本からの技術協力を得て運営されているものである。プラントの事例を見学により、技術的な問題点について多くの質問が出され、3日目のクラスルームセッションでは、より活発な議論が行われた。

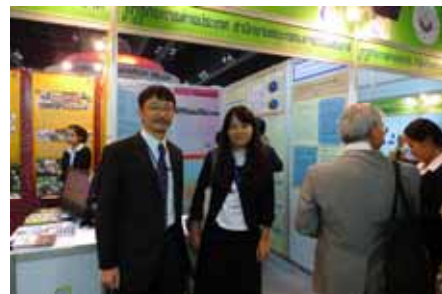
また、初日の夜にはナイトセッションとして Cultural Exchange プログラムが行われ、日本からは柔道の紹介、タイからはタイの衣装とダンスの紹介があり、またタイ・日本基礎講座など行い親交を深めた。



## JSPS-NRCT Seminar at Research Expo 2009 : 「Advanced Science and Education in Japan」開催

2009年8月26日(水)～30日(日)までバンコク コンベンションセンターでおこなわれたNRCT主宰の Research Expo 2009 に、当センターから事業説明のポスター掲示をおこなうブースを出展し、8月28日に論博同窓会セミナー、8月29日にNRCTとの共催セミナーを開催した。

2009年8月28日(金)午後で開催された地球温暖化に関する論博同窓会セミナーでは、池島センター長から「Global warming research and policy response in Japan」と題した講演が行われた後、論博同窓会メンバー4名から、地球温暖化によるタイの気候への影響、Biochar (バイオ炭)による温暖化の緩和と土壌改良と貧困の解消、



なぜ、そしていかに二酸化炭素排出を削減するか、そして、地球温暖化問題の解決のためのタイにおける共同研究の推進、についての発表が行われ、最後に質疑応答が行われた。

その後、タイ国論博同窓会幹事会との打合せには、論博同窓会の Dr. Busaba Yongsmith 会長をはじめ幹事等 15 名程が参加し、池島センター長から人物交流課・加藤課長が紹介された後、加藤課長から、同窓会設立の趣旨、他国における同窓会活動例、設立に向けたスケジュール等について説明がなされた。論博同窓会幹事、NRCT のスタッフによるレセプションでは、論博同窓会幹事から、論博事業で日本での研究経験が今の研究の基礎となっていること、またその時の日本側研究者とは現在でも交流が続いていること等、論博事業に謝意が述べられた。



8月29日(土)の「Advanced Science and Education in Japan」と題したと当センターとNRCTとの共催セミナーでは、まず、NRCT Secretary General の Prof. Anond Bunyaratvej による Welcome Remarks、池島センター長による本会事業説明を含む Opening Remarks の後、グローバルCOEプログラム採択拠点の名古屋大学福田敏男教授「Robotics and Automation for Human Support」、鳥取大学岩瀬剛二教授「Plants cannot grow without mushrooms - underground world of mycorrhizal associations」、千葉大学中山俊憲教授「Development of new immuotherapy for cancer: iNKT cell-based immunotherapy」の3講演が行われた。各講演後の質疑応答では、活発な質問がなされ、タイの研究者の日本における研究への関心の高さが伺われた。



なお、講師1名につき1名ずつタイの同分野研究者がモデレーターを務め、タイ語で講師の紹介及び質疑応答時の通訳を行ったことにより、参加者にとって講師との距離を近く感じる事ができたようである。

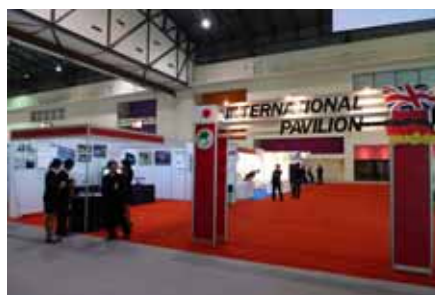


## タイ科学技術週間展示会参加

8月7日(金)から23日(日)までの約2週間、インパクト エキシビジョンセンター (IMPACT) において、タイ国科学技術省主催で、タイ科学技術週間展示会 (National Science and Technology Fair 2008) が開催された。8月8日(日)には H.R.H. Princess Maha Chakri Sirindhorn 臨席のもと開会式が行われ、8月13日(木)には、H.R.H. Princess Chulabhorn が視察をされた。



日本の関係機関からは、当センター、宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、科学技術振興機構 (JST)、国際農林水産業研究センター (JIRCAS)、新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)、情報通信研究機構 (NICT) らが出展した。東京工業大学は、科学技術開発庁 (NSTDA) との共同出展をおこなった。



日本ブースの他に、国際ブースとして、イギリス、ロシア、ドイツの機関の出展があった。当センターは、本会の事業説明及び拠点大学交流事業の成果についてポスター展示をおこなった。

本展示会は、8月18日がタイの「科学の日」であることにちなんで、毎年8月に青少年及び一般国民への科学技術の理解増進を図ることを目的として開催されている。タイの科学技術関連機関及び大学等が、機関紹介の展示のほか実技実演を加えた展示をおこなった。バンコク市内だけでなく、地方からの小中学校生の参加も含め連日10万人、合計では約130万人を超える参加入場者数があった。

## タイ神戸大学同窓会 発足総会開催

8月22日(土)、バンコク・シェラトングランスクンビットにて、タイ神戸大学同窓会の発足総会が開催され、池島センター長が来賓の挨拶をおこなった。同大学の海外同窓会としては、6番目となる。国際交流等担当理事の中村千春副学長、同窓会等担当理事の田中康秀副学長、中西泰洋留学生センター長をはじめ、国際交流推本部、留学生センター教職員や、タイ在住の日本人及びタイ人卒業生が参加した。

中村副学長から、神戸大学の最先端の研究教育の現状と国際交流、特にタイとの学術研究交流についての説明があり、続く田中副学長からは、国内・海外ネットワークと卒業生をつなぐ

仕組みの「KU - Net」の紹介があり、大学側が同窓会を積極的に支援していく方針も強調された。

#### 第5回現地 ODATF 遠隔セミナー「科学技術協力」出席

9月16日(水) JICA バンコク事務所にて、平成21年度第5回現地 ODA タスクフォース遠隔セミナーが開催され、当センターから池島センター長と角田副センター長が出席した。本遠隔セミナーは、話題を決めて2ヶ月に1度TV会議システムで実施しているものである。今回のセミナーでは、外務省国際協力局より日本の科学技術外交について政策的観点から説明がなされ、地球規模課題対応国際科学技術協力、科学技術研究員派遣の制度概要、実施手順等について、実施機関である JICA、JST、本会から説明がなされた。科学技術研究員派遣制度については、本会前澤地域交流課長と JICA 担当者より説明がなされた。その後、活発な質疑応答や意見交換がなされ、両事業に関する関心の高さがうかがえた。

#### 第5回科学技術連絡会

9月18日(金) 在タイ日本国大使館4階大会議室にて、第4回科学技術連絡会が開催された。宇宙航空研究開発機構、国際交流基金、国際協力機構、国際農林水産業研究センター、新エネルギー・産業技術総合開発機構、情報通信研究機構、東京工業大学バンコク拠点からの代表者が出席した。当センターから角田副センター長が出席し、当センターの今年度の上半期活動内容や今後の活動について報告をおこなった。

在タイ日本大使館より、10月上旬に筑波を訪問する予定のカラーヤ・タイ科学技術大臣が、新たなサイエンスパークの設立に関心を持っているとの話題提供があり、サイエンスパークの現状について、下記のような意見交換がなされた。

サイエンスパークの評価はタイ国内でもそんなに高くなく、実際、成果があまり出ていないように思う。

タイ側にサイエンスパークの成功事例として、台湾の新竹の事例を紹介したことはある。新竹科学工業園区は、半導体中心にハイテク産業が集積しており、サポートする体制も整っている。タイは、生産だけではなく研究開発にも力を入れていきたい、これまでの反省にたって民間の資金も取り込みたい、ということだと思う。規制の改善を申し入れるよい機会かも知れない。ベトナムも、サイエンスパークを持っているが、そこに宇宙センターを作りたいという話がある。タイ地理情報宇宙技術開発機構(GISTDA)も衛星の研

究開発のための施設を作りたい意向があり、10月にGISTDAの幹部が日本の関連企業を訪れることになっている。

タイ側は、ロケットや自動車などをイメージしているのではなく、バイオ・食品・環境を念頭に置いているのではなかろうか。

## 泰日工業大学訪問

7月9日(木)に泰日工業大学(Thai-Nichi Institute of Technology)を訪問した。泰日工業大学は、2007年6月にバンコクに開設された工業技術系の私立大学である。大学の母体となる泰日経済技術



振興協会(TPA)は、タイ人元日本留学・研修生を中心に組織され、人材育成、産業技術情報の普及・促進、日泰友好のため様々な事業を展開し、泰日工業大学はTPAの35年以上に亘る実績・経験を生かした「日本型ものづくり大学」を目指している。工学部、情報学部、経営学部、大学院を設置し、学部では日本語と英語を必修科目とし、日本語のできる技術者の育成をうたい、卒業までに日本語能力検定試験3級合格取得を目指している。カリキュラムの特徴として、タイ産業界で需要の高い自動車、電気、電子、通信技術の分野を重視し、産業界やタイ国内外の日本機関との強い協力連携関係に基づく、現場における実習教育やインターン等をおこなっているという。在タイ日本企業、タイ企業などから奨学金提供や実習機材の寄贈などの支援を受けており、当センターの訪問日にも複数の企業が訪問予定に入っているなど、業種を問わず泰日工業大学への訪問者が多く、渉外・広報の活発さが現れていると感じた。

## 第1回日越学長会議出席

9月17日(木)~9月18日(金)ベトナムから45大学、日本より100大学の代表が参加し、ベトナム政府からはNguyen Thien Nham 副首相・教育訓練省大臣、日本政府からは坂場三男駐ベトナム大使、加藤重治大臣官房審議官(高等教育局担当)が列席し盛大に日越学長会議が催された。当センターから池島センター長が出席した。

会議のアジェンダが直前まで調整が繰り返されるなど、会議の内容や議論の方向性について、開催まで不透明な点多かったが、会議では日本とベトナムの大学間の交流実績とそれによる

成果が多く紹介され、日越の交流をさらに促進する必要性が確認された。

冒頭の Nguyen Thien Nham 副首相・教育訓練省大臣のあいさつでは、ベトナムでは 1987 年に 101 校だった大学が現在 376 大学まで増え、この間大学の学生数も 13 倍に増え現在 170 万人が学んでいるが、まだ大学の教育・研究レベルは高いとは言えず、質の向上と基準化が課題であること。その為に大学教員の学位



取得者を大幅に増やすことと、そのなかで、日本へは 1000 人を学位取得のために送り出したいと考えていると述べられた。また、現在、ベトナムには世界の大学ランキングで 200 位以内に入る大学が一つもなく、200 以内にランクする国際レベルの大学を作ること为目标とし、そのためにベトナムの国立大学と海外のトップレベルの大学が組んで、新たな国際大学を設立する構想が提案された。

このような大学は、すでにドイツの協力で 2008 年より開始され、フランスとも同様な大学の開校について協力の話し合いを行っていることが紹介された。その上で、日本の協力によりベトナム中部のダナンに電子工学、情報工学、バイオテクノロジーなどの先端分野と管理学を中心とした研究型大学を造る構想が提案された。アジア開発銀行からの資金調達と ODA による援助を基にする構想で、英語に加えて日本語の教育も重視するというものである。この、ダナン国際大学 (Danang International University) 設立構想については 設立に向けベトナム側の支援の核となるダナン大学の学長による講演を含め、ベトナム側より繰り返し紹介され、本会議においておそらく、ベトナム側が最も強く日本側へ伝えたいメッセージであり、協力へ向けた日本の大学および日本政府の機運を高めたいというのが、ベトナム側の最大の意図であったようである。

会議においては、それぞれの大学やプログラムによる協力関係やその実績が紹介されたほか、教育の質の保障 (quality assurance) と認証評価 (accreditation) についてのセッションが設けられ、東京大学 (古田元夫教授) とハノイ教育大学 (Nguyen Viet Kinh 学長) よりそれぞれの大学の経験が紹介された。評価や質保障は特に国際化や国際的な学生の交流が増えていくために重要であると同時に、評価や質保障制度により、大学教育に適切なカリキュラムやカリキュラム編成の自由度が制約されるという負の側面が起こりうるという問題点が指摘された。このような問題点を含めて、質保障と認証評価も国際的な問題として協力が求められた。

以下は私見として、会議中の講演で特に印象に残った点であるが、静岡大学と名古屋大学の講

演では、それぞれの大学が地元産業の強さと産官学連携の取り組みを国際連携にも活かすべく積極的に取り組んでいることを述べ、産業界と連携したプログラムなどが紹介された。立命館大学からは国際化への取り組み、理工学部への拡充などいち早く教育・研究において重点を置くべき点に取り組み、また立命館アジア太平洋大学の設立にあたって民間からの寄付金により奨学金を多く用意するなど、先見的な取り組みで積極的に大学を発展させてきたことが紹介された。これらの講演から、大学の国際的な取り組みについては、それぞれの大学に得意な分野や条件があり、また立地する地域の特徴とも併せて活動する方向を考えることで、効果的でまた大学間でも必ずしも競合するものでなく、相互に補完的な活動を進めていくことができるだろうと考えられた。

### **The inaugural meeting of the sub-committee on cooperation (SoC) under Malaysia-Japan economic partnership agreement (MJEPA) 出席**

2009年7月7日(火)、マレーシア外務省において上記の会議が開催された。この会議は、日馬経済連携協定に基づく協力に関する小委員会(協力小委)の第一回会合として開催されたものである。マレーシアより、共同議長を務めたジョージ外務省東アジア局長をはじめとして、19省庁から35名あまりが出席し、日本からは石川浩司南東アジア第二課長(共同議長)をはじめ外務省、在マレーシア日本大使館関係者や科学技術分野に関連する機関として、JSPS, JST, NEDO, 国際協力や経済協力に関わる機関から JICA, JETRO, JF より代表者が出席した。当センターから池島センター長が出席した。

本会議は従来のODAの協力について、あらたな課題を話し合うのではなく、大学間協力、民間セクター間交流などより広い範囲での協力を進めるための土台を作ろうというもので、日本からは、どのような機関の活動や既存のプログラムにおいて、マレーシアとの協力を行ってきたかについて、また今後、マレーシアとの協力で効果の大きいと考えられる分野や事業について紹介が行われた。JSPSからは国際交流事業のうち、特にアジア地域が対象となるプログラムを中心に紹介を行った。一方、マレーシア側からは省エネ、再生可能エネルギー利用、リサイクルをはじめ気候変動対策など環境対策、科学技術分野での協力のほか、農業分野での市場アクセスや組織化などのマネジメント、観光、貿易・投資促進のための政策協力などが、特に協力を求めたい分野として挙げられた。会議の結果については報告書を作成し合同委員会へ報告されること、また1年以内に次回会合を開くことが合意された。

会議の翌日には、マラヤ大学 Deputy Vice-Chancellor の Prof. Dato' Mohd Jamil Maah を表敬訪問した。また大学の研究を統括する部門と分析施設、海洋地球科学部を見学した。



建物施設の維持にかかる苦労があるようだが、大型の分析機器を集中して管理するなどし、効率的に使っていること、また海洋地球科学部では海洋生物部門の研究室を見学では、日本との共同研究を含め活発な研究活動の様子がうかがえた。

## マハナコン工科大学が大学ランキングトップへ

大学ランキングで、マハナコン工科大学が他の有名な国立大学を押さえて、1位になったことに教育関係者はショックを受けている。

マハナコン工科大学が国家教育レベル査定委員会（ONESQA）の最新評価で、「研究・講義の質」と「卒業生の質」の2部門で1位になった。

昨日委員会によって発表された結果によると、スラナリー工科大学が2位である。

チュラロンコンやタマサートなどのような高校生に人気の高い国立大学もランクインしている。

「研究・講義の質」でタマサート大学は4位、チュラロンコン大学は7位で、両方も「良い（good）」のされなかった。

ONESQA は公的機関で、学校から大学までの全教育機関の質を評価するために設立された。

研究・講義の質の評価で、ONESQA は研究の質、社会的貢献度、人材開発、講義の質などを対象にした。

卒業生の就職率や雇用主の満足度などの基準も対象とされた。

バンコクのノンチョーク区にあるマハナコン工科大学は1990年に設立され、ナコンラーチャシマー県のムアン区にある自律的なスラナリー工科大学も1990年に設立され、ONESQAにより高くランクされたウボンラーチャターニー大学は1987年に設立された。



Source: Office for National Education Standards and Quality Assessment POSTgraphics

ONESQA・Directorのワン・ピティヤヌワット氏は、「新しい大学が古い大学より優れている背後に要因があると述べる。

「おそらく（新しい大学には）若くて活動的な大学教員が多いためであろう。」と同氏は述べる。

他の要因としては、卒業生や創造的な研究プログラムの明確な方針や新しいカリキュラムや新キャンパスの拡充意向なども挙げられる。

「これらの要因は思いがけない成功に導くことがある。」と同氏は述べる。

有名大学の学長から ONESQA の結果についてのコメントは得られなかった。

しかし、名門大学の理事等は ONESQA の評価の信頼性、真実性に疑問を持っている。

「ONESQA の評価は公的によく認められるか？本当に現実を反映しているのか？」ある大学教員はこう述べた。

国立大学は一般向けにサービスを提供する義務があるが、私立大学はそのような義務はないため、国立大学と私立大学を一緒に評価されることは不公平であると大学教員は述べる。

高等教育機関の評価は2006年と2008年の間に202の大学を対象におこなわれた。今回は、二回目の評価で、最初は2001年から2005年の間におこなわれた。

16の大学はONESQAによって決められた基準をクリアしなかった。10の大学は、半年の改善期間が与えられた。

ソムワン氏は、決められた基準をクリアせず、評価のセカンドチャンスにあたえられなかった6つの大学名を公表することを断った。同氏は、3つが地域大学で、残りの3つが私立大学だと述べている。

ONESQA は、標準に満たない52コースを提供している29の国立と私立大学があったと述べている。

( Bangkokpost ・ 2009 年 9 月 9 日 )

## タマサート大学に新しい国際保健コース設立

タマサート大学は、国内外問わず急成長している健康産業へのニーズにあう、国際健康管理に関するコースの開設を予定している。

単なる個人レベルの健康の医療的な技術を超える、国内・国外の患者へのケアと同様に、インフルエンザのような最近の世界的な疾病への対応が要求される。

国内・国外の健康管理システムの急速な変化に対応できるような技術と資格をもったスタッフのニーズにより、タマサート大学の健康科学センターとビジネススクールは国際健康管理に修士号 ( MSc ) と博士号 ( PhD ) を開設しようとしている。

このコースは、タイでの健康管理の最初の国際プログラムである。

ジョージ・ワシントン大学、バーミンガムのアラバマ大学、サン・アントニアのテキサス大学、世界保健機関 ( WHO ) の地域事務所、全米保健機構 ( PAHO ) 等の機関との協力の下、英語で授業がおこなわれる。

タマサート大学のスラポン・ニティグライポット学長は、「国内外の機関間の協力関係がわれわれのコースの強みであり、国際化に貢献する。」と述べる。

学生は海外の大学で、修士課程の1学期、博士課程での1年間の研究コースで、インターンとして働くことができるという。

米国の春学期にあわせ、修士プログラムは2010年1月に始まり、学生は30人しか募集しない。博士プログラムは2011年に始まる予定である。タマサート大学のランシットキャンパスで授業はおこなわれ、タイ人と外国

人留学生を受け入れる。

看護学部長でプログラムディレクターであるマンヤット・ルチウィット准教授は、「このコースのニーズは増えてきている。」

「学生達がこのプログラムを卒業するとき、WHO や学術機関や、健康管理に関する起業などの様々な環境で働くことができるであろう」と同准教授は述べる。

他の国と同等のマネージメントスキルを有する健康に関する人材を育成することが目標である。

タイ人の学生は海外の大学での研修で、単位を取得することができ、バムルンラーオ国際病院で研修し、専門家から学ぶ機会もある。

修士プログラムの学費は、約 80～90 万バーツである。

(プログラム詳細：[www.gradhc-tu.com](http://www.gradhc-tu.com))

(The Nation・2009年9月7日)

### 科学技術省「研究開発にもっと焦点を」

科学技術省が内閣に、Public-Private Partnership on Science and Technology (PPPST)の承認を要請した。

これは研究開発のハブとして、タイの価値を高めようとする動きである。

経済界の激しい競争下で、国を発展するための主要の障害として、民間の厳しい要求を供給できる研究開発が挙げられる。

カラヤー・ソーポンパーニッチ科学技術大臣

によると、タイ国は研究開発に、民間部門と軍を除くと、国内総生産のたった 0.25 パーセントしか費やしていないという。米国、日本、シンガポールのような先進国と比較すると、低い数字であると見られている。

PPPST により、研究開発投資を呼びこみ、(研究開発費の)予算を国内総生産の 1 パーセントに増やして、5年から 10年の間には(研究開発費は)1000 億バーツとなるであろうと大臣は述べる。

PPPST は、科学技術大臣が議長をつとめることになる。委員会は産業省、通産省のような関係省庁の常置の事務局と、民間企業からの代表者、タイ工業連盟、タイ商工会議所、タイ銀行協会、中小企業事業、大学教員のネットワークから構成されることになる。

一方、タイ国家科学技術開発庁(以下 NSTDA)は昨日、「iTAP Big Impact」という中小企業支援プログラムを開始した。

このプログラムは、NSTDA の工業技術支援プログラム(iTAP)から発展したもので、3つのセクター(精米、養鶏、ゴム硬化)の中小企業の利益とエネルギー効率の改善を目指している。

NSTDA のテクノロジーマネジメントセンター長のチャチャナート・テープタラノン氏は、NSTDA は中小企業へ即座に応用するべく簡単に使用できるような改善を実行した。

「全国の 43000 所の米製粉所が参加すれば、米製粉の SMEs の利益性を 20 パーセント増加し、電気代の面で 210 億バーツを節約できることになる」と同氏は述べる。

iTAP ディレクターのソントワン・スパー

タラプラティープ氏いわく、このプログラムは低利融資で実績のある 12 行の銀行を通じて中小企業に財政的な支援をおこなうという。

( The Nation ・ 2009 年 8 月 5 日 )

## 7月

- 7月5日～8日 The inaugural meeting of the sub-committee on cooperation (SoC) under Malaysia-Japan economic partnership agreement (MJEPA) 出席 (センター長)
- 7月8日～10日 海外センター係小野係員来訪
- 7月9日 泰日工業大学訪問
- 7月13日 在タイ日本大使館大使主催夕食会(タイ国元日本留学生協会新会長就任記念) (センター長・副センター長)
- 7月21日 京都大学大学院エネルギー科学研究科 石原教授、大垣教授、園部助教来訪 (副センター長)
- 7月28日 東京大学井上准教授来訪・打合せ (センター長)

## 8月

- 8月4日 アジア経済研究所 山田研究員、タマサート大学田村講師来訪 (センター長・副センター長)
- 8月7日 チュラロンコン大学 セミナー出席、NRCT打合せ、 (センター長・副センター長)
- 8月11日 東京大学井上准教授来訪・サマースクール打合せ (センター長・副センター長)
- 8月7日～23日 タイ科学技術週間展示会 (IMPACT)
- 8月22日 タイ神戸大学同窓会発足式典及びレセプション出席 (センター長・副センター長)
- 8月25日～31日 NRCT科学技術展示会
- 8月26日 NRCT科学技術展示会オープニングセレモニー出席(センター長)
- 8月27日～30日 人物交流課加藤課長、田中係長、研究事業課 高田係員来訪
- 8月28日 タイ論博同窓会 (ARAT) セミナー、同窓会員とのミーティング (センター長・副センター長)
- 8月29日 JSPS-NRCT Seminar at Research Expo 2009 : 「Advanced Science and Education in Japan」開催 (センター長・副センター長)

## 9月

- 9月3日 埼玉大学 国際交流支援室 高尾室長来訪、京都大学東南アジア研究所  
バンコク事務所訪問（センター長・副センター長）
- 9月7日～9日 2nd JSPS-NRCT Summer School: Biomass Energy in Asia 開催  
（センター長・副センター長）
- 9月16日 第5回現地 ODATF 遠隔セミナー（JICAタイ事務所）  
（センター長・副センター長）
- 9月18日 第5回科学技術連絡会出席（在タイ日本大使館）（副センター長）
- 9月22日 千葉大学 山本理事、安藤副理事、五味田国際企画課長来訪  
（センター長・副センター長）

---

---

**日本学術振興会バンコク研究連絡センター / JSPS Bangkok Office**

113 TWY Office Center、10th Fl. Serm-mit Tower

159 Sukumvit Soi 21、Bangkok 10110

Tel: +66-2-661-6453 Fax: +66-2-661-6454